



かすがい 自然の家だより

題字 春日井市長 伊藤 太

第 52 号

春日井市野外教育センター
少年自然の家

〒487-0031

愛知県春日井市廻間町1102-1

TEL (0568) 92-8211

FAX (0568) 91-1640

初めて知った昆虫の世界 よく見て、触って、大満足



プロジェクト・ワイルド 秋のアクティビティ虫取り



たくさんの生き物とともに 生きる喜び!

○プロジェクト・ワイルド（環境教育プログラム）

秋のアクティビティ参加校の感想

- ・最近では虫取りに出かけていく機会も少ないので、とても良い体験ができた。
- ・虫を実際に触る体験ができ、苦手になっていた子も最後には積極的に参加していてとても良かった。



「自然体験をしよう！！」

野外教育センター (少年自然の家)
所長 伊藤 雅明

市東部の豊かな自然に囲まれた「春日井市少年自然の家」は、児童などを自然に親しませ、自然の中で集団宿泊生活を通じて情操や社会生活を豊かにし、心身を鍛錬し、もって健全な少年の育成を図ることを目的としています。開所から35年以上たっていますが、小中学校の野外活動など宿泊と日帰りを合わせて年間延べ9万人の方が利用されています。また、平成30年4月から、この施設で自然体験活動を行った市内外の小中学校82校でした。野外学習を終えた子どもたちから感想が届きます。



「みんなと一緒に野外体験や宿泊をして、新しい友達とのきずなやみんなと助け合うことの大切さがわかった」「ネイチャーガイド×トレッキングに参加して、いろいろな木の持つ特長や自然のすごさ、豊かさを学ぶことができた」などの手紙をいただき、大変うれしく思います。私も、子どもたちと話をするなかで、「家に帰ったらこの施設で体験したことをお家の方にお話をして、今度は家族みんなであってください」と伝えます。少年自然の家では、「初めて挑戦！アウトドア」、「自然体験プログラム」や「サマーキャンプ」など年間を通じていろいろな事業を開催しています。文部科学省が行った子どもの生活力に関する調査によると、子どもの頃の自然体験が多いほど、大人になってからのコミュニケーション力、礼儀・マナーや課題解決に対するスキルなどが優れている傾向がみられるようです。この機会に是非皆さんもご参加いただき、家族のふれあい、自然との体験を楽しんではいかがでしょうか。

『苔 (こけ)』



苔のジャングル

これまで、目には入っていたけれど、よく見ていなかった生物「苔」が気になりだしました。苔は、ほとんどが数ミリ～数センチと小型の植物であるため、顔を近づけ、さらに虫眼鏡を通してでないと、形やつくりが見えてきません。しかし気をつけて探せば、土の上、コンクリートやアスファルトの間、樹木の幹、倒木や切り株、水際や湿地など、どこにでも群落を作り、それぞれの環境に多くの種類が生息しています。乾燥すると葉を茎にぴったりとくっついたり、葉を丸めて身を守ったり、さらに乾燥が進むと仮眠状態になったりします。逆に湿ってくると、すぐに葉を広げて光合成をし、栄養を蓄えます。ズームアップしてみれば、そこにはマイクロのジャングルが広がり、その中をトビムシやダニなどのおもしろい形の怪物が動き回っています。条件の良い春から秋に、種類ごとに特徴のある孢子体という器官を伸ばし、孢子を飛ばして仲間を増やします。岩石しかない太古の陸上に進出した植物の中で、苔は岩に張り付き、酸性の物質を放出して、ごくわずかずつ岩を溶かし、必要な微量元素を吸収して生きのび進化してきました。わずかずつ壊れた岩石と自分の遺骸を元手に土をつくり、植物進化の礎となったそうです。さて、虫眼鏡(×10)と水のスプレーを持って、じっくりと苔を観察してみます。



ダニや昆虫



孢子体

自然観察アラカルト ⑲



少年自然の家活動記録



野外炊事



ハチミツしぼり体験



キャンプファイア



里山体験(通年9回)

サマーキャンプ2018
アクティブプログラム



学校の仲間と
一年中
笑顔
いっぱい
家族や新しい仲間と

ナイトハイク



あそびむしくらぶ 10回



かすがい子ども防災キャンプ



山登り

～ネイチャーガイド×トレッキング～



ピザ&スモーク

まだまだあるぞ！

- きらめきキャンプ ホテル&カヌー
- 冬のファミリーキャンプ
- 里山木こり体験
- わくわく自然ランド (4回)
- 築水池カヌー体験 (4回)
- カヌーに乗って湿地探検 (2回)
- 初めて挑戦！アウトドア (3回)
- 大人の里山歩き (8回)
- 万葉の花めぐり (2回)
- 緑と花のフェスティバル

学校体験プログラム平成30年度利用数(市内外)
 ○ネイチャーガイド×トレッキング 35校 2544名
 ○プロジェクト・ワイルド(環境教育プログラム)
 13校 1070名

はたして少年自然の家の敷地「築水の森」には、どんな野生動物がすんでいるんだろう？



ほとんどの哺乳類は夜行性で、直接観察することができず、足跡、糞、食痕、聴き取りなどから、「いるだろう」の推測レベルで判断するしかありませんでした。そこで、築水の森に5台の自動撮影カメラを設置し（中部大学環境生物学科の協力）、生息する哺乳類の調査を行いました。有効撮影枚数 1980 枚のうち一番多く撮影されたのは、もちろん「散策者」で全体の76%でしたが、2番目が「イノシシ」で20%、



イエネコが11枚、ハクビシンが8枚、キツネが7枚、タヌキが5枚、ノウサギ、イタチの仲間、アライグマが1枚ずつ撮影されました。カメラは散策路の低い位置を撮影するように設置しており、樹上を移動するホンドリスマムササビは撮影されませんが、ホンドリスマムササビも近年、フクロウの巣を利用しているのが確認されています。また、森林内の地上から地中にかけて生息する野ネズミ類、ヒミズやモグラの食虫類は生け捕り罠の捕獲調査（中部大が実施）で確認されています。これらのことから築水の森には実に多様な哺乳類が生息し、彼らが生息できる環境が維持されていることが実感できました。そういえば、みろく山頂直下でカモシカに出会ったことを思い出しました。



※撮影時間の分析から、散策者とイノシシは早朝4時から6時と夕方16時から19時で活動時間が重複していました。この時間帯の築水の森の散策にはお気を付けください。

冬×自然体験プログラム

1 January

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2 February

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

チャンスはあと8日

今年度は宿泊者だけでなく、日帰りもOK!

1/5(土), 6(日)・1/19(土), 20(日) 2/9(土), 10(日)・2/23(土), 24(日)

餅つき

時間 9:00~12:30 参加費 1人 500円

持ち物 食器(皿・椀)・はし・軍手

※10人以上の参加が必要

たき火&焼きいも

時間 13:30~15:30 参加費: 1人 300円

持ち物: 軍手

※4人以上の参加が必要

キャンドルづくり

時間 13:30~15:30 参加費: 1人 500円

持ち物: 軍手

※4人以上の参加が必要

パードウオッチング

時間 13:30~15:30 参加費: 1人 300円

持ち物: 防寒具

※4人以上の参加が必要

- 各プログラムの申込みは、参加日の3日前までとなります。※ただし1/5・6は、12/28 17:00までをお願いします。
- 申込みはホームページから指定の申込用紙をダウンロードして、メールかFAXにてお送り下さい。
- 3歳未満の幼児の参加料は無料ですが、実施に必要な人数には含まれません。